

まちかどプレス

em.dzi:pres

第3号

2017. 3. 31 発行

(新)

ホームページアドレス

machikado-gallery.com



まちかどギャラリーって
どんなところ？



インターネットを通じてまちかどギャラリーの活動を広く発信しています。内容を拡充し、より多くの方に利用していただけるよう、HPを刷新しました。

四季の移ろいを感じられるお庭があるところ。

寒い時期には椿が咲き、寒空にポッと心を温かくしてくれます。大きな木もあり、暖かくなってきた鳥のさえずりで賑やかな日もあります。もう少しすると、つつじも咲き始めますよ。

登録有形文化財に認定されたまちかどギャラリー自慢のお庭です。小ぶりながら形の良い景石が存在感を放つ前庭は和室から眺めると周囲から隔絶された風情を満喫できます。脇に立つ土壁にも建築当時のまのまの模様の意匠が施され、海からの風に対応した左瓦という、古い海岸集落に特徴的な様式を確認することができます。格式が高いお庭故になかなか手を入れる事が出来ず、少々荒れてしまっていたのですが、3月末に庭木の剪定を行いました。綺麗になったお庭で昔ながらの情緒をお楽しみください。お茶の会などにもご利用いただけます。

【催し物のご案内】

4月 9日(日) 浜田裕介投げ銭コンサート
14:00～16:00

15日(土) 島崎桃代 個展『みち草をかじる』
-30日(日) 絵画、私物、文章などを公開。
9:00～17:00

22日(土) まちかどカフェ
須崎高校生がモーニングや軽食を提供。
9:30～15:30

23日(日) “自然塾” 米袋を使った手提げバッグ作り
13:00～16:00
参加料 500円(材料費別途 500円)
お申込み 090-6568-3484(はずみ)



5月 9日(火) 明德義塾高校・中学校美術部展
-21日(日) 9:00～17:00

平成28年度 事業実績報告

3回の自主企画、6回の共催企画を実施、77件の貸館利用があり、延べ10,015人(3月21日時点)の来館者がありました。近隣にお住まいの方の施設利用が増した事、ユニークな自主企画がメディア等に注目された事で、開館以来初めて1万人を超えるお客様を迎えることができました。新たに始まったまち歩き事業では13名のまち歩きガイドが誕生し、新年度より本格的に活動を開始します。ますます多くの方に利用していただき、須崎のまちを文化的に盛り上げていけるよう、努めてまいります。

予告 まちかどギャラリー企画

八重樫ゆい 展

6月3日(土)～7月2日(日)

色面やストライプを重ね合わせ、布生地柄やパターン等の抽象的なヴィジュアル・イメージを絵画に置換し注目される若手作家。ストイックな制作を続ける画家の新作を紹介します。

「第9回絹谷幸司賞」に西村有さん

東京の個展と須崎でのアーティスト・イン・レジデンスの成果が評価される



《海の街》
2016年 油彩／カンヴァス 53.0×45.5cm

【現代地方譚Ⅳ アーティスト・イン・レジデンス須崎】（以下現代地方譚）に参加してくださった西村有さんが、毎日新聞社が主催する35歳以下の若手の画家に贈られる「絹谷幸司賞」を受賞しました。

西村さんは神奈川在住の画家。昨年秋に須崎市に滞在し、その後一旦神奈川にもどります。須崎での経験や記憶を元に多くの作品をかきあげ、須崎の展覧会（現代地方譚）で発表してくださいました。授賞式ではその時の成果が評価されたと、紹介されたそうです。

須崎での滞在時には新庄川で泳いだり、海を眺めたり、おいしい魚を堪能されていました。その時々記憶のエッセンスが作品となって、受賞にも繋がったと思うとうれしいですね。

（新）コーナー アートに触れよう！ 第1回 アルフォンス・ミュシャ

名前は知らなくても一度はどこかで作品を観た、という方もいるのでは？

ミュシャは1860年、現在のチェコで生まれました。パリに出て、34歳の時に手がけた舞台ポスターは、多くの人を魅了し一躍有名になりました。

この当時ヨーロッパでは「新しい芸術」を意味するアール・ヌーヴォーという国際的な美術運動がありました。花や、植物などをモチーフにした自由曲線が特徴です。日本の浮世絵から影響を受けたともいわれています。

ミュシャはアール・ヌーヴォーを代表する作家の一人で、女神のような美しい女性像や流麗な植物文様などを描き、目を惹く華やかなポスターを多く手がけています。芸術を生活の中に取り入れようという動きのあったこの時代。現代の生活の中でも、アートを身近に感じてもらえるように紹介していきたいと思います！

館長より補足

繊細な描線の美しい女性像が目立ちますが、ミュシャはずっと自身の出自であるスラブ民族の歴史や伝承を絵画に残したいと考えていました。周囲を強国に囲まれ、常に支配と迫害の危機に脅かされていた母国のアイデンティティを保つために芸術を役立てたいと思ったのです。後年、チェコに戻ったミュシャは一枚6m×8mの絵画が20点にも及ぶ大作《スラヴ叙事詩》の制作に取り掛かります。しかし描きあげた時には時代の潮流に合わず、全く注目されませんでした。パリでの華やかな暮らしと、内に秘めた祖国への感情、そしてその評価のコントラストが面白い作家です。時を経て現在《スラヴ叙事詩》は再評価され、全20作品が日本で公開されています。機会があれば観てみたいですね。



ミュシャ出世作
《ジスモンダ》
1895年 リトグラフ／紙
217.9×75cm

編集後記

新たな気持ちで新年度を迎えていることと思います。「MG：プレス」も今回から新コーナーが始まりました。もっとアートを身近に楽しんでもらえたらな、と思い1回目を担当させていただきました。4月からホームページも新しくなっています。より親しみやすく、わかりやすく情報を発信していきます。 大野



す さ き
ま ち か ど
ギャラリー
旧 三 浦 邸

発行：すさきまちかどギャラリー

〒785-0004 高知県須崎市青木町1-16

TEL.: 050-8803-8668

HP: machikado-gallery.com

開館時間： 9:00～17:00

月曜日休館 祝日の場合は翌日休